

人間社会学部におけるキャリア女性学副専攻の動向

遠藤 知巳

1. はじめに

本稿では、2014年度の間人社会学部におけるキャリア女性学副専攻の動向を概観し、キャリア女性学の新しい方向性として、川崎市との地域連携に関する取組を簡単に紹介したい。

まず、人間社会学部におけるキャリア女性学副専攻の経緯をまとめる。キャリア女性学専攻の創設は、2002年度に副専攻制度を設けた時に遡る。人間社会学部の5つの学科(主専攻)の外に、それらを横断する3つの副専攻コースを開設し、キャリアプランに直結する実践的なプログラムの提供を目指すものである。

昨今における女性のライフコースの多様化は、社会環境の急速な変化とそのグローバルな変動状況とともにあるものであり、現代女性が社会にきちんと貢献しつつ、個人として充実した生を歩むうえで、複雑な社会的条件が大規模に連関する現代社会の諸相を把握し、それらに対する多元的な問題解決能力を高めることが重要である。以上のような構想のもと、2006年に、「現代の女性高等教育ニーズに応じた多領域横断型副専攻プログラムの再編成」というテーマで大学教育高度化推進特別経費補助金と学内の特別重点化資金を得て、従来の副専攻制度は、現代の女性高等教育ニーズに応じた多領域横断型プログラムである「キャリア女性学副専攻」へと再編された。その際、女子大学としての特性を十二分に活かし、現代の高学歴女性のキャリア形成の変化もふまえてコースの一層の質的な向上を図ることを志した。

実際のリニューアルにあたっては、まず、既設の副専攻制度での履修状況や学生の授業評価を精査し、問題点を洗い出した。また、新たなプログラム開発のために本学卒業生の動向や生涯学習状況を把握し、現代の女性高等教育ニーズの現在の位相と中期的可能性とを検討した。さらに、アジア諸国、とくに本学が学術交流関係をもつ中国の中華女子学院と韓国の梨花女子大学での専攻制度や女性学の実態を調査し、アジア女性学の視野をとりいれて、現代女性のキャリア形成とライフコースの多様化を踏まえた副専攻プログラムの開発に取り組んだ。

以上のような検討と調整を踏まえ、2007年度より、現代女性のライフコースをふまえたキャリア形成に資することをめざす副専攻として「キャリア女性学副専攻」を実施することになった。副専攻制度としての再編成という観点から見ると、その要点は、1) 現行の三つの副専攻を三つのコースとする、2) 三つのコースにキャリア女性学副専攻共通のコア科目群を設置する、3) キャリア形成科目との相互乗り入れを検討する、という三点

によって特徴づけられる。

より具体的には、既設の副専攻制度を①地域・行政コース、②国際活動コース、③情報技術コースという3つのコースに編成し、それに加えて、キャリア女性学コア科目を新設した。コア科目を設けることで、どのコースを選択しても、女性のライフコースを基盤としたキャリア設計に役立つように工夫した。副専攻取得希望者は、キャリア女性学コア科目を習得したうえで、3つのコースのいずれかを選択して履修する。

キャリア女性学コア科目は、1) キャリア形成、2) キャリア制度、3) ビジネス系、4) ライフコース系という4つの科目群から構成されており、それぞれの科目群には複数の科目が置かれている。各々の科目群は、それぞれ、1) ライフコースと女性の生き方や現代の家族事情を知る科目（現代女性の生き方を考える）、2) 労働事情を知りキャリアデザインを考える科目（現代社会での働き方を考える）、3) 女性たちの仕事の実際を知る科目（さまざまなビジネスやキャリアのありかたを知る）、4) 具体的な労働の場における諸問題と法律を学ぶ科目（キャリア女性をめぐる問題と解決法の実際を知るために）として配置された。

それぞれのコースの性格と狙いは以下の通りである。①地域・行政コースは、公務員をはじめとして、さまざまな地域活動で活躍する人材の養成を視野に入れ、経済や法律、行政などの科目に力点が置かれている。②情報メディアコースは、コンピュータを駆使する領域をめざす人が、おもに情報技術や情報メディアの処理論やその実際の応用を学ぶ。外国語を活かした社会活動を目指す学生のためには③国際活動コースが準備されており、ここでは、外国語の実践的能力や諸外国の文化・歴史の集中的学習が目指される。

各コースでは、具体的なキャリア形成の基礎となるようなベーシックな授業科目を選択することができるのみならず、キャリアプランに直結する実学的な授業科目として地域活動講座、国際活動講座、「コンピュータラゼーションと現代の諸問題」という実践的な授業が必修科目として配置されている。

2. 2014年度における履修状況

キャリア女性学副専攻では、2年次のはじめに登録し、3年次に所定の単位が取得されっていると、4年次に単位修得証明書を発行しており、その証明書が就職活動に役立つように配慮されている。

2014年度におけるキャリア女性学副専攻の履修状況は、3年次は総計146名、在籍者数の27.4%、2年次は総計144名、在籍者数の31.2%が副専攻のいずれかのコースを履修している（表参照）。昨年度2年次の履修状況を承けて、3年次の履修状況は、人数も対在籍者数比率でも昨年度から大幅に増えている。2年次についても、履修比率は、激増した昨年度2年次並の30%を数字であり、数字にかぎって判断するならば、2年連続して順調な運営ぶりということが出来る。

人間社会学部キャリア女性学副専攻履修状況 2014年

2年次	現社	社福	教育	心理	文化	計
地域・行政コース	20	22	4	6	5	57
国際活動コース	17	9	3	3	32	64
(英語)	4	6	2	2	7	21
(ドイツ語)	3				5	8
(フランス語)	4	2		1	11	18
(中国語)	1	1			3	5
(イタリア語)					3	3
(韓国語)	5		1		3	9
情報メディアコース	9	2	1	4	7	23
計	46	33	8	13	44	144

在籍者数	102	96	92	61	110	461
在籍者数に対する履修者数割合 (%)	45.1%	34.4%	8.7%	21.3%	40.0%	31.2%

3年次	現社	社福	教育	心理	文化	計
地域・行政コース	13	27	4	2	7	53
国際活動コース	10	8	5	6	54	83
(英語)		3	3	2	18	26
(ドイツ語)				1	3	4
(フランス語)	3				9	12
(中国語)	4	2	1	2	9	18
(イタリア語)	2		1		6	9
(韓国語)	1	3		1	9	14
情報メディアコース	1	3	1	2	3	10
計	24	38	10	10	64	146

在籍者数	94	94	119	84	142	533
在籍者数に対する履修者数割合 (%)	25.5%	40.4%	8.4%	11.9%	45.1%	27.4%

※在籍者数は、2014年5月1日現在 (西生田学務課作成)

3. 人間社会学部と地域連携活動と今後の展望

2005年に専修大学、明治大学とともに「多摩区・3大学連携協議会」設置協定を締結して以降、生涯学習センターにおける川崎市との連携講座の開講、多摩区内を中心に学校教育ボランティア学校サポート事業、読売ランド駅前地域活動拠点サクラボによる地域連携活動等を実施してきた。また、これに関連して、今年度から山形大学が主催する大学間地域連携プログラム「つばさネットワーク」の参加が決まっており、川崎市の協力のもと、全国の参加大学から学生を集めて、川崎市を横断的・多面的に研修・考察する3泊4日のワークショップが8月に開催される。このワークショップ全般に関わる学生サポーターには、サクラボの参加学生(の一部)が当たることになっており、事前研修も含めて熱心に取り組んでくれている。「つばさネットワーク」における川崎ワークショップは、今年度以降3年間で予定されており、これを機会に、サクラボを中心とした本学部の地域連携活動が質量ともに充実していくことが、大いに期待される。

その他にも、2011年7月21日に川崎市と締結した連携協定をもとに、学校教育ボラ

ンティア事業を発展する形で、2011年後期より、幼稚園、小学校の教職希望者を対象とした学校インターンシップ事業を導入した。2011年度は「学校インターンシップⅠ」として、学部1年生（幼稚園24名、小学校49名）が週1日（計8日間）連携協力校・園を訪問し、授業を参観し、簡単なボランティアを体験させていただいた。

2012年秋には学部1年生、2年生を対象にして「学校インターンシップⅠ」、「学校インターンシップⅡ」を開講した。学部3年生、4年生における学校教育ボランティア、教育実習、学部4年後期の教職実践演習に至るまで、地域や附属校・園、協力校・園と連携した教員養成プログラムを構築していきたい。

（えんどう ともみ 人間社会学部現代社会学科教授・キャリア女性学副専攻委員長）